

平成 25 年度

南三陸町の 魅力を活用した まちづくり企画書

(骨子案)



復興計画推進会議

～目 次～

序. 検討の手順 ～平成 25 年度復興計画推進会議 ～.....	1
1. 復興への思いと不安、推進会議の検討テーマ ～第 1 回推進会議～	2
2.町の人口減少と人口増加策例 ～第 2 回推進会議～.....	4
3. 「また住みたい、また来たい」の種となる町の魅力と活用法～第 3 ・ 4 回推進会議～.....	5
4.町の魅力の活用プラン.....	8
★ 南三陸椿ものがたり	
★ 鮎的人材育成	
★ みんなで健康「グラウンドゴルフ」	
★ 南三陸スポーツパーク	

序. 検討の手順 ~平成25年度復興計画推進会議~

第1回推進会議では、町の復興への思いや不安、今年度検討していくテーマを話し合いました。

第2回推進会議では第1回会議の検討結果をもとに人口減少・流出の要因や問題について、事務局の提供資料をもとに話し合いをしました。

第3回推進会議では人口減少や流出対策として「また行きたい（来たい）と思ってもらう」視点から南三陸町の魅力を振り返り、第4回推進会議でその活用方法を考えました。

第5回と第6回の推進会議から、特に重視する魅力の活用を企画にまとめました。

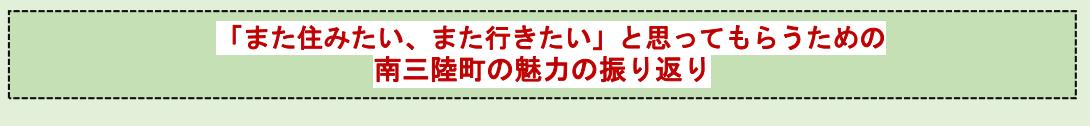
◆第1回推進会議：復興への思いや不安、今年度の検討テーマ案の抽出



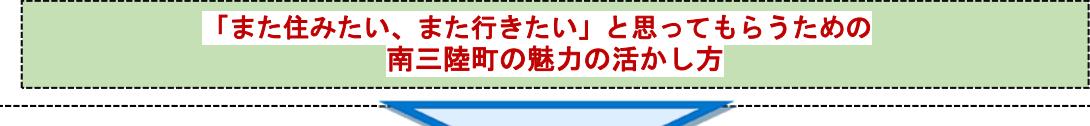
◆第2回推進会議：人口減少問題の検討



◆第3回推進会議：人口減少・流出対策のための魅力の振り返り



◆第4回推進会議：魅力の活用方法の検討



◆第5回・第6回推進会議：重視する魅力の企画作成



1. 復興への思いと不安、推進会議の検討テーマ～第1回推進会議～

(1) 復興への思い

「未来につながる新しいまちづくりをしたい」、「南三陸の良さを活かして復興したい」、「賑わいのあるまちづくりを望む」ことが私たちの思いです。

未来につながるまちづくりをしたい

- ・未来の子供たちのためにまちづくりをしたい。
- ・復旧にとどまらず既成概念にとらわれないまちづくりを望む。

南三陸の良さを活かして復興したい

- ・震災以前の南三陸の良さを活かしたまちにする。
- ・今の現状を風化させないよう後世に伝える。
- ・もとのまちに戻す。・素晴らしい故郷をつくる。

賑わいのあるまちづくりを望む

- ・たくさんの観光客に来て賑わいのあるまちづくりを望む。
- ・働き続けることが復興。

(2) 現状への不安

「人口減少や雇用の場の減少」、「まちづくり全体のコンセプトが見えないことやまちづくりの遅れ」「生活サービスや観光客の減少」が課題や不安として考えていることです。

人口が減る・生活サービスが低下する

- ・人口流出による町の独立性の低下が不安。
- ・雇用が維持できず住民減少を懸念。
- ・（人口減で）教育・医療・福祉サービスが低下する。

まちづくりが見えない

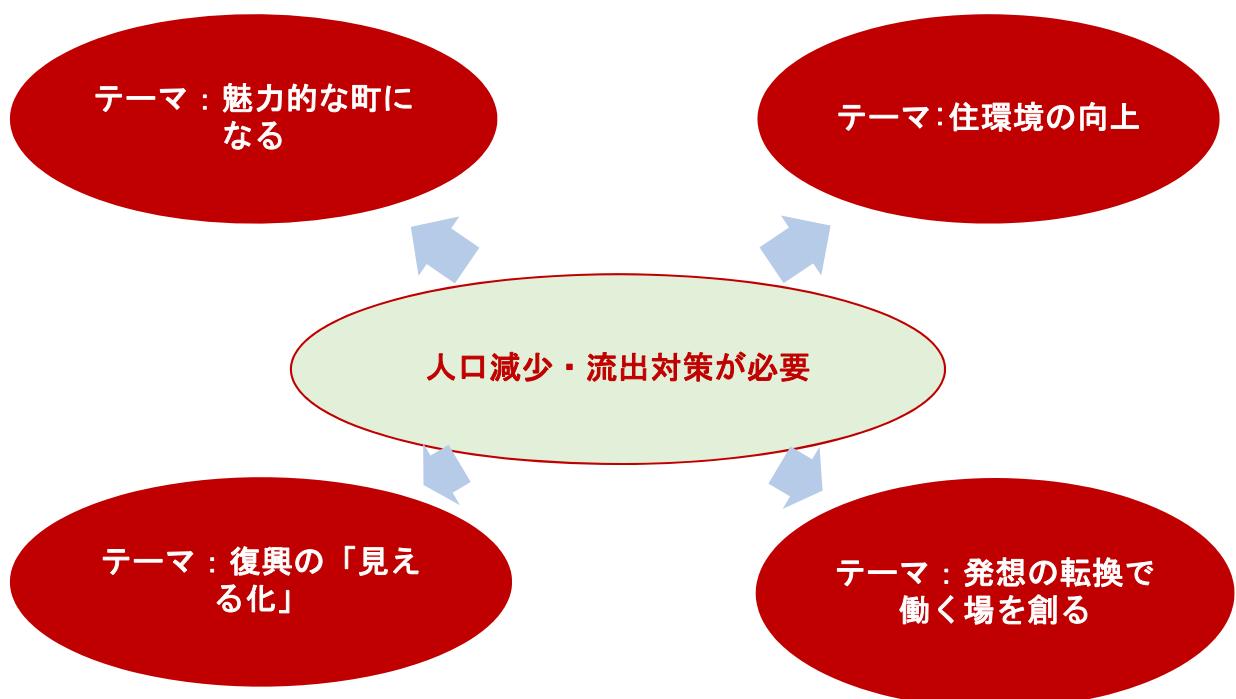
- ・まちづくりコンセプトや復興後の生活が見えない。
- ・漁村地区のまちづくりが決まらない。
- ・復興の遅れによる復興意欲低下。

雇用の場がない・観光客が減る

- ・仕事がなくなり南三陸町の将来が不安。
- ・（観光再生の姿が見えず）観光客の減少が不安。

(3) 今年度の推進会議の検討テーマ

話しあいの結果をもとにすると、「人口減少・流出に対する対策」が今年度検討したいテーマの柱になっており、次にその「人口減少や流出がどうなっているのか」、また、「どう困るのか」を委員相互に共有します。



2. 町の人口減少と人口増加策例～第2回推進会議～

第2回推進会議では、皆が不安に思っている町の人口減少やその対策事例について検討しました。

まず、事務局より、現在の人口は、震災前に比較して15%減っていることや今後平成33年に13,364人、平成43年に11,550人に減少する可能性があることが報告されました。

また、他の市町村で人口増加に取組んでいる事例を検討しました。

<第2回推進会議事務局参考資料より抜粋>

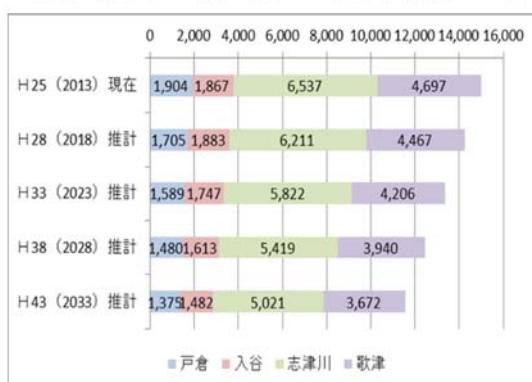
◇人口は震災前に比べ約15%減少

○平成25年3月の人口を震災前の平成22年3月と比較すると、沿岸部の被災地域の減少が大きく、南三陸町は▲15.4%と女川町に次いで大きくなっている。

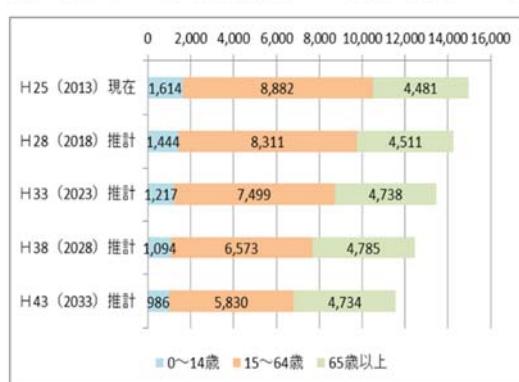
◇人口推計手法(コード法)による人口予測

○一般的な人口推計手法(コード法)によると平成33年に13,364人、平成43年に11,550人に減少する可能性がある。(人口増加施策なしと仮定した場合)
○地区別では戸倉地区の減少割合が高く見込まれる。(平成43年に現在より▲28%)
○高齢化率は平成33年に35%、平成43年に41%と見込まれる。(現在30%)
○平成43年に0~14歳人口が▲39%、15~64歳人口が▲34%と見込まれる。

南三陸町の地区別人口推計(単位:人)



南三陸町の年齢階層別人口推計(単位:人)



◇人口減への対策事例

○海の資源を使ってリターンの増加に取組む(島根県海士町)
○交流人口拡大:アートによる地域活性化(新潟県十日町市)
○子育て・教育環境・住環境の充実で人口増(千葉県流山市)
○交流人口拡大:ニューツーリズムや観光まちづくり

3. 「また住みたい、また来たい」の種となる町の魅力と活用法～第3・4回推進会議～

第3回推進会議では、「人口減少対策としてまた住みたい、また来たいと思うまちづくりが必要」と考え、その種となる町の魅力を振り返り、グループごとにまとめました。

第4回推進会議では、第3回会議で振り返った「町の魅力」の活用方法を検討し、グループごとにまとめました。

＜町の魅力と活用のアイデア：グループA＞  企画を作成した魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）	自ら行う	町の力を借りる
 椿	南三陸椿ものがたり (ご縁椿はな咲くまちづくり) (椿の避難路)	<ul style="list-style-type: none"> ・塩害に強い特性を活かして、防潮林、避難路に椿を植える。 ・沿岸部に椿を植えて、高台団地を作るためになくなつた緑の分を自然に還す。 ・椿を縁にして他町と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種集め ・ポット苗作り ・グッズ制作 ・椿基金 ・維持・管理 ・特産づくり ・苗畠つくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・P R ・苗づくりの土地の提供 ・学校との連携 ・他町との交流 ・苗づくりの協力依頼
地名	地名で伝える防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地名に刻まれた津波への警告を意識的に見える形にして伝え、防災教育に活かす。 (先人が残した地名が埋もれないように積極的に発信する。) ・地名で表す防災マップを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと高齢者で話し合う場をつくる ・紙芝居を作る ・防災マップ作り ・語り部活動 ・看板作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・P R ・作成協力 ・配布協力 ・学校との連携
縁側	えんがわで笑顔のお茶っこ	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶っこ文化を活かしてコミュニティ再生を手助けする。 ・仮設集会所で行政と町民のお茶っこ会を継続的におこない、つなぐ場をつくる。 ・たらすもづをここで出す。 ・お年寄りの見守りに役立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりお茶会の実施 ・たらすもづサミットの開催 ・支援職員さんの故郷と交流 ・おらいのつけものサミット 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの可能性に関する情報提供
 鮭	鮭的人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・町を離れてもまた戻ってくるような人材を育てる。 ・海の学校づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーセンターで原体験の場づくり ・子供達に伝承 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーセンターの整備 ・P R ・学校との連携
果報団子	秘伝の果報だんご	<ul style="list-style-type: none"> ・たらすもづ、秘伝の果報団子、海の体験などここにしかないものを作る。（規格品になることを避けるためたらすもづは商品化しない） 		

＜町の魅力と活用のアイデア：グループB＞  企画を作成した魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）	自ら行う	町などの力を借りる
海・山の魅力	南三陸 キッザニア	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が漁業など職業体験できる場所が少ないので増やす ・小学校間の親子体験交流を行い海・山の南三陸らしさを味わう（入谷地区～海岸地区） 	職業体験への協力	学校間、地区間の交流窓口
防潮堤を逆手	南三陸で健康づくり（海の隣でグランドゴルフ）	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ場を宿泊施設のそばにつくり、ホテルと連携してシーフードバーベキューを行う。 ・防潮堤の斜面を利用して、海の見える場所で行う ・仮設住宅の人と町外の人を呼び、グランドゴルフ大会を行う。 (目標ができれば皆が元気に) 	大会の企画・運営	グランドゴルフができる場所の確保
海・山の地形	ツールド南三陸（サイクル・三輪車・マラソン）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の各地区対抗の運動会を復活させる ・全国から人が集まる田東山のマウンテンバイク大会に加え、「三輪車で登る大会」を行う。 ・町内の復興を感じるため、町内をぐるぐる回る自転車のロードレースやマラソン大会を行う。 ・コース上にモアイ像を置く 	企画・運営支援 (田東山のマウンテンバイク大会は自転車組合が運営)	各地区への呼びかけ窓口
地場食材	町外の人が作る料理コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々で食材を使った祭りを開催する ・町内外の人が参加する料理コンテストを開催する。 ・南三陸の食材を使って町外の人に料理をしてもらうコンテストを開催する。 ・町の名物と（姉妹都市）など町外の名物を組み合わせた食のイベントをおこなう。 	企画・運営	姉妹都市などへの呼び掛ける際の窓口

<町の魅力と活用のアイデア：グループC> ☀ 企画を作成した魅力

魅力	アイデア名	どのようにする（活用の方法）	自ら行う	町などの力を借りる
盛ん だっ たゴ ルフ	グラウンド ゴルフ	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場を作る大会を開催して人々の繋がりを回復する。 ・外で活動する機会を作る。 ・用具の貸し出しをしてだれでも参加できるようにする。 ・仮設住宅に一つ作っても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャル（PR） ・口コミで広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドゴルフができる場所を作つてもらう。（50m × 30m） ・管理をグラウンドゴルフ協会にお願いする。
盛ん だっ たス ポーツ	(町主催) 運動イベン ト開催 町で遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・練習が必要で目標となるイベントにする。 ・ビニールバレー（ソフト） ・卓球 ・グランドゴルフなど ・囲碁やスポーツマージャンなど（手を動かすもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅ごとにルール等を教える人を配置する 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導する人を外部から招き講習会をする。 ↓ ・遊ぶ人を養成する
海の 資源	志津川湾を 巡るツア ー！ メカブ漁の 体験 ぶなの植林 カキやホタ テのいかだ 見学	<ul style="list-style-type: none"> ・今のボランティアや新人研修を続けてもらう ・宿泊施設の準備が課題 ・食事もつけ足してみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が重要 ・プログラム構築（難しいか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協に受け入れてもらう ・漁協や海友会（歌津漁師さんOB会）へのコーデネート、窓口を頼みたい
東浜 街道 等の 歴史	南三陸フィ ールドワー ク	<ul style="list-style-type: none"> ・地形、暮らし、歴史等を現地の人が案内する。 ・地元の人との現地体験を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点にマークをつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな拠点は作らないが拠点は欲しい

4.町の魅力の活用プラン 「企画骨子」

「町の魅力」の活用のアイデアの中から、「私たちの思いが特に強い、町民の皆さんに参加しやすい」などの視点からテーマを絞りこみ、「町の魅力の活用プラン」として提案します。

なお、「町の魅力の抽出から魅力の活用プランを企画するまでの経過と今後のまちづくりへの展開イメージを示します。

◆第3回・第4回会議：町の魅力を振り返り、活用方法についてのアイデアを検討

- (グループA)
- ・南三陸椿ものがたり
 - ・地名で伝える防災事業
 - ・えんがわで笑顔のお茶っこ
 - ・鮭的人材育成事業
 - ・秘伝の果報だんご事業

- (グループB)
- ・南三陸キッザニア
 - ・南三陸で健康づくり（海の隣でグラウンドゴルフ）
 - ・ツールド南三陸
 - ・お客様が作る料理コンテスト

- (グループC)
- ・グラウンドゴルフ
 - ・運動イベント
 - ・志津川湾をめぐるツアー
 - ・南三陸フィールドワーク

◆第5回会議（魅力の活用方法の具体化）

→「事業の目的、事業の内容、結果どうなる、実施上の課題…など」

(事務局) 企画書骨子（案）作成/追加検討事項の洗い出し、必要に応じ他団体や町の支援可能性を確認

◆第6回会議（今回）：全部の企画に対し意見交換を行い、完成イメージを共有

(事務局) 企画書（案）を作成し、各委員に送付し確認後に確定

◆第7回会議（予定）：委員による魅力の活用プラン発表会／新年度テーマと進め方を検討

○町民主体のまちづくり
(H26から隨時スタート)

○町の予算などへの反映
(H25復興特区申請の計画やH26予算などに反映)

◆第8回（4月予定）以降推進会議
(住環境の向上、働く場を創る等)

図 町の魅力の振り返りから企画までの手順とまちづくりへの展開イメージ

★ 企画名：南三陸椿ものがたり

「企画骨子」

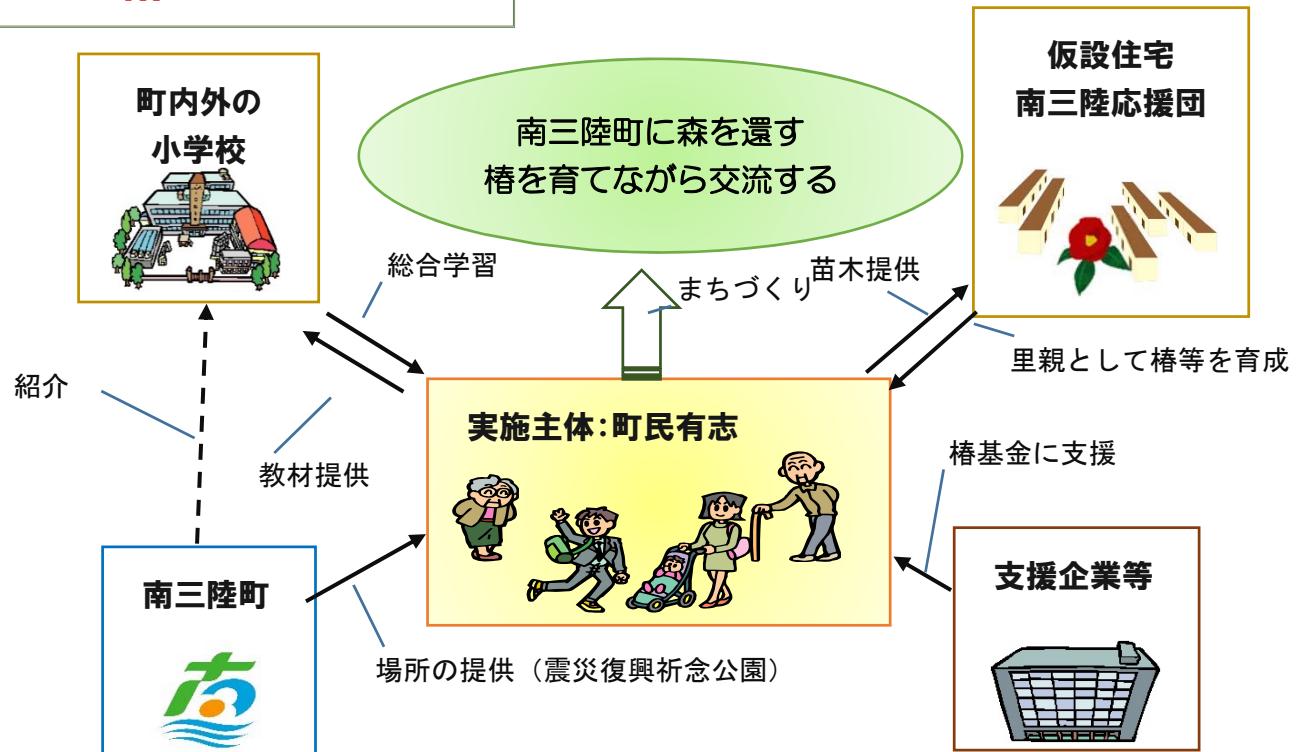
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・大津波の塩害で多くの杉等が立ち枯れしたが、その中で椿はいつもと変わらず、見事な花を咲かせ、震災で絶望の中にいた人々を和ませた。 ・根っこが大事と教えてもらった ・鎮魂の花を真ん中に置いて町を再生したい。種から始めるまちづくり
事業の目的	なんのために	<p><森の再生（「森を街に 街を森に」）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸せな暮らしがあった街、多くの命が奪われた街を震災復興祈念公園として整備し、その中に震災の記憶を永遠にとどめる椿等の森を創り、これから生まれてくる子どもたちに、「街を森に」した私たちの思いを伝えていく。 ・避難路に活かし目印にする。・支援者への恩返しの活動としても椿を活かす。 ・椿文化を見直し発信する。・産業に結びつけていく。
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちからお年寄りまでみんなが参画できるまちづくりのひとつとして
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・椿守さんの登録など カード発行、リストアップ ・(だれが)子供たち、大人、町外の人など多方面の人 (どこで)学校で、有志グループで、交流イベントで(椿の名所廻りツアーなども) (何をどのように)椿のたねっこ拾い、植樹、学び、ポット苗づくり、ゆるキャラでグッズ、他にも春の追悼、椿ながし、てんぷら、椿油など
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・成長に合わせた取り組み 人もいっしょに成長する ・10万円ぐらいから／年 植樹関連、しぶり代など
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年6月スタート、H26年10月椿の種拾い
結果どうなる (期待する効果)		<p><低地部の森の再生></p> <p><学び合い、交流人口の増加></p> <p>中心市街地を椿等の森にした私たちの思いを千年後の子どもたちに伝えていく。 そして、自分たちの命を自分たちで守れるようにしてほしい。もう二度と、津波による犠牲者を1人も出さないように、椿等の森で、尊い教訓を伝えていく。</p>
自ら行う	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志 ・椿
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達からお年寄りまでそれぞれに役割を持つ
町や外の力を借りたい	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習の題材として ・わらすこ探検隊
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・椿基金 ・椿の里親制度 ・苗木育成の土地 ・無償貸与と土地の紹介
	町外の企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるキャラの利用(商店街) ・町外の学校

注) 青字は事務局で加筆させていただきました。

南三陸椿ものがたりの場



南三陸椿ものがたりのしくみ



★ 企画名：鮭的人材育成

「企画骨子」

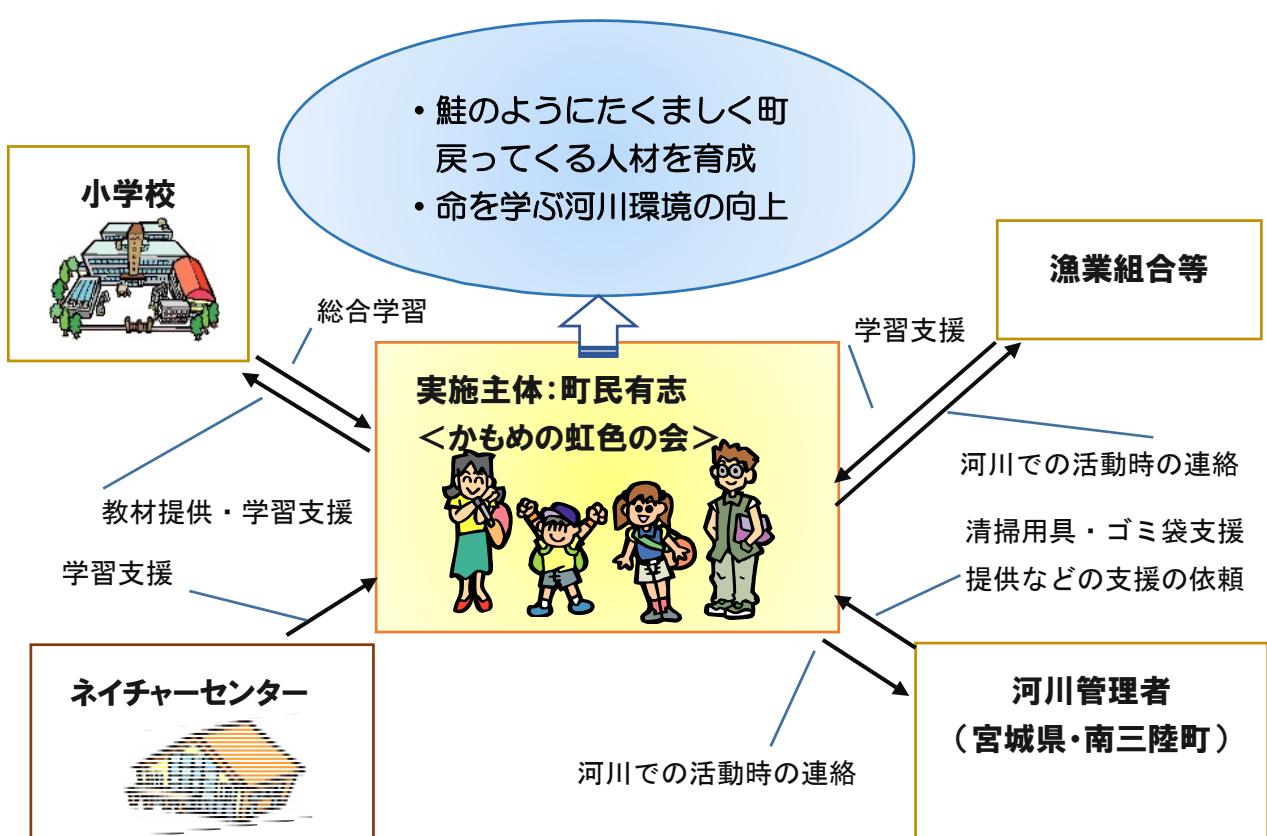
事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・冬の海を昇る鮭の姿はこの町の原風景 ・いのちとつながりを学べる川。人間形成に活かしたい
事業の目的	なんのために	<p><人材育成。鮭のように逞しい人間を育てる取り組みのため></p> <p>大津波により、町外の仮設住宅に暮らしている子どもたちは、南三陸のニオイ（文化・暮らし・遊び・人々）を覚えていない。南三陸に戻りたくなるように、遊びやイベントを通して、イクラ（子どもたち）を南三陸に戻るサケ（大人）に育んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮭の生態を通して故郷を知る ・また戻って来たくなる町をつくる ・この町ならではの発想で川の環境を意識することで水産業向上にもつなげる ・持続可能な社会づくりの取り組みや人口流出に立ち向かう新しい視点として
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちから大人まで(町内外)
事業の内容	だれが どこで 何を どのよ うに	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが総合学習の共通の取り組み(1年生～6年生) ・鮭がよろこぶシリーズ(森づくり、川づくり)河川管理 ・鮭マラソン(森→海→森へ) ・鮭といくらの親子教室 ・鮭とばづくりP J ・咲け！鮭まつり ・鮭のうた ・鮭の絵コンテスト ・鮭男(福男) ・いくらちゃんの大冒険 ・鮭すごろく大会 ・鮭ずもう大会 ・いくらちゃんを探せ！ ・鮭先生の登録制度
	概算費用	
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> ・H26.4～ 観察会と河川掃除は春からできる！
結果どうなる (期待する効)		<ul style="list-style-type: none"> ・いのちのつながりを学べる、死生観 ・町の魅力を人に伝えることができる ・食育！ ・河川管理に主体性がうまれる ・いのちのつながりを守る
事業実施上の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・継続してゆけるか/・どう拡げてゆけるか/・ネットワークづくり
自ら行う	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志(かもめの虹色の会) (これまで月2回のペースで話し合ってきた)
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志&ネイチャーセンター、友の会など
町や外の力を借りたい	町や関係組織	
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(中学校) ・ネイチャーセンター

注) 青字は事務局で加筆させていただきました。

鮭的人材育成の場



鮭的人材育成のしくみ



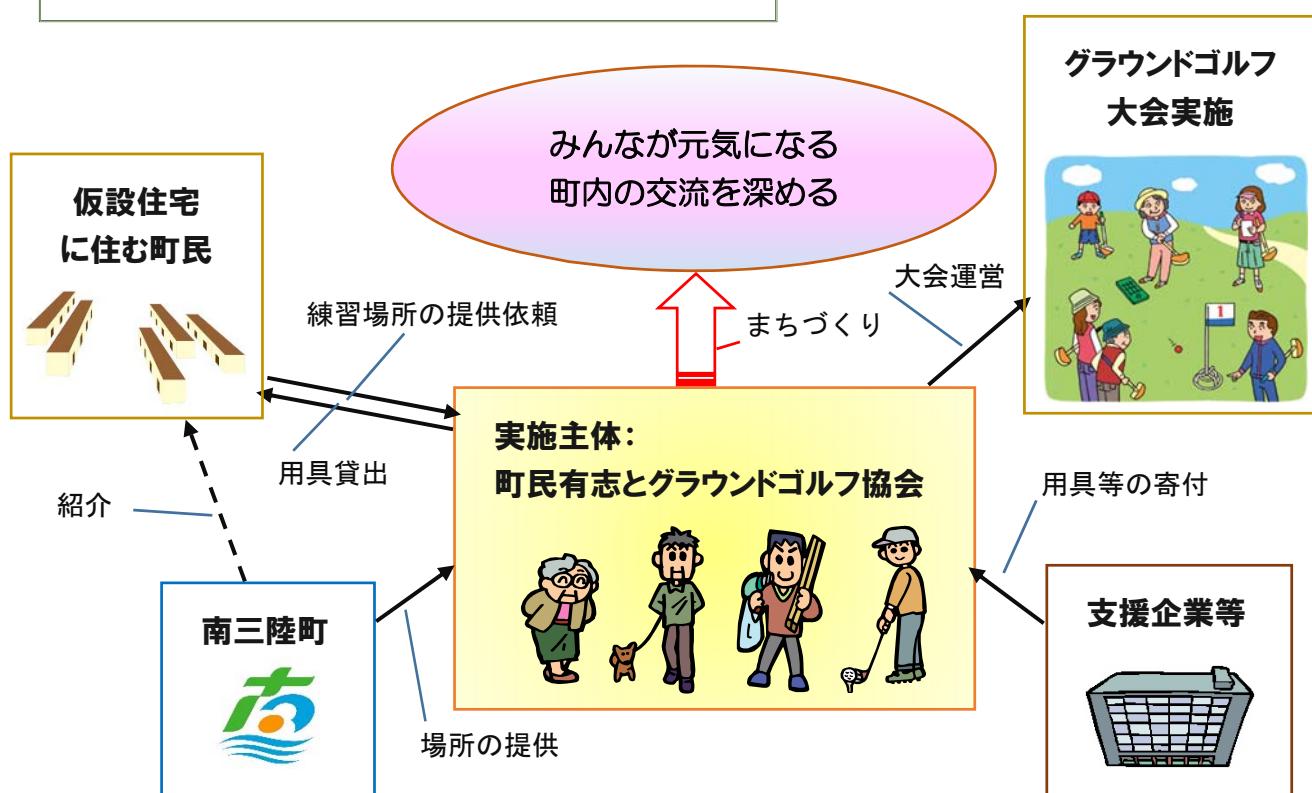
★ 企画名：みんなで健康「グラウンドゴルフ」

「企画骨子」

事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> 今までの愛好家がGGをやれる機会が必要 住民交流の場、住民が元気になれる様にする 住民の交流を直接的にはかる方法として一番良い (先ず遊びから) (頭をからっぽにする) 震災前に盛んだったGGをやる事で、かつてのにぎわいを思い出させる
事業の目的	なんのために	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフを通して健康づくり、交流の場づくり →将来は総合イベントに拡大 スポーツが盛んだった南三陸を取り戻す
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを愛し健康でいたい町民みんなのため
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> 町のグラウンドゴルフ協会が軸となって推進する 50m × 30m のコースが確保できれば標準コースができる 仮設住宅毎にショートホールを作って練習する。 波及させるためには専用のコースを確保していきたい 住民の住まいの近くに練習場があるのが望ましい。(日々の練習場所) さんさんの駐車場など多機能利用出来る様に整備する 泊浜半島にある既設施設を借りる(道具なども無料貸出) 恒久的施設、松原公園(八幡川右岸)
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> 道具 1 セット : 5 万円程度(スポーツ用品メーカーからの寄贈希望) イメージアップ経費→住民交流の場、大会試合・保険費用 等
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> H26年4月～ (小さな場所で練習を始め、大会を開く)
結果どうなる		<ul style="list-style-type: none"> 健康増進、交流の活性化
事業実施上の課題は?		<ul style="list-style-type: none"> 場所の確保とその選定、標準 8 ホール(50m × 30m) × 2 面 運営の課題→スポンサーに賞品を提供してもらう スコアをつける人の育成 試合の課題 : 協会の人のHC(ハンディキャップ)をどうするか
自らが行う	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> 推進会議のメンバー GG(グラウンドゴルフ)協会
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> 仮設住宅の住民を中心とした方々
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> 町(場所の提供)
	町内団体等	<ul style="list-style-type: none"> 工事担当JVに暫定コースの貸与、復興協力
	町外企業等	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ用品メーカーなどの支援・協力 (スポーツ用品メーカーにもPR効果があるはず)

注) 青字は事務局で加筆させていただきました。

みんなで健康グラウンドゴルフの場



★ 企画名：南三陸スポーツパーク

「企画骨子」

事業の背景・思い		<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女だれもが楽しめる ・広い場所がないが体を動かす場が欲しい ・人、時間をつなぐ ・ベイサイドアリーナのアウトドア版がほしい
事業の目的	なんのために	<ul style="list-style-type: none"> ・町民みんなの健康増進のために ・町外から人を呼ぶため(スポーツツーリズムの振興)
	だれのために	<ul style="list-style-type: none"> ・町民全体のため ・南三陸を訪問してくれる人たちのため
事業の内容	だれがどこで何をどのように	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に応じてサイクリングやランニングトラックとここを起点とした町内のサイクリングコースやランニングコースの確保(たとえば田東山まで) ・体験学習スペースやバーベキューや芋煮ができる場所も確保 ・芝生の広場確保 ・グラウンドゴルフやストリートバスケットの場の確保 ・南三陸の地形、古道を活かし、震災時に命をつないだ道を歩く
	概算費用	<ul style="list-style-type: none"> ・町民無料、町外有料 ・町民自身で維持管理しながらできるだけ費用を抑える
	いつから	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早く
結果どうなる (期待する効果)		<ul style="list-style-type: none"> ・健康につながる ・みんなが集まる、楽しめる ・町外の人が来られる場所
事業実施上の課題は?		<ul style="list-style-type: none"> ・場所がない ・暫定的でもスペース確保 ・指定管理(行政)
自らが行うこと	中心となる人	<ul style="list-style-type: none"> ・町民有志 ・体育協会
	参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを愛する町民 ・スポーツを愛する来訪者等
町や外の力を借りたいこと	町や関係組織	<ul style="list-style-type: none"> ・平成の森や松原運動公園が復旧するまでの間の場所の提供 ・指定管理者制度の活用
	町内の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・民宿、ホテル・旅館
	町外の企業等	<ul style="list-style-type: none"> (スポンサー企業)

注) 青字は事務局で加筆させていただきました。

南三陸スポーツパークの場

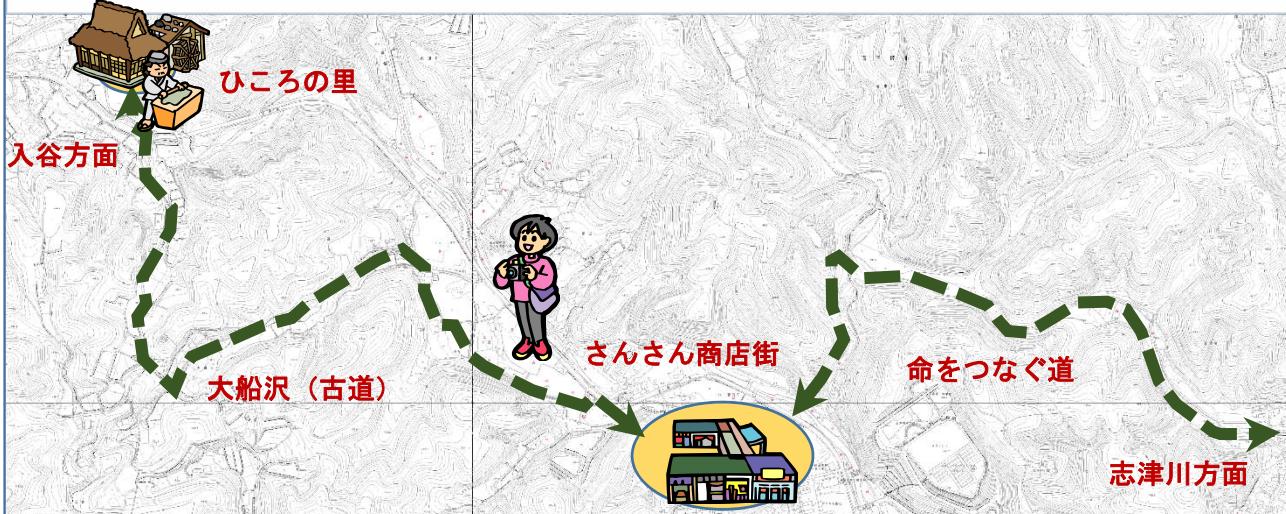
◆ツールド南三陸ルート例（歌津地区）

福幸商店街前～伊里前川沿い～田東山



◆命と歴史をつなぐ道：ウォーキングコース例

入谷桜沢（ひころの里）～大船沢（古道）～小森～さんさん商店街～大沢川沿い山道～志津川方面



南三陸スポーツパークのしくみ

復興工事中のスポーツ広場確保希望



安全管理

みんなが健康になる
町外から人が来て賑わう

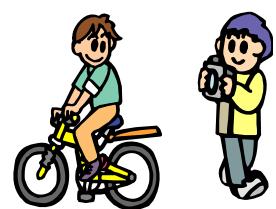
実施主体：
市民有志と各体育協会構成員



まちづくり

大会運営

ツールド南三陸 ウォーキング大会



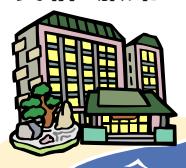
おいしい南三陸の食を提供

南三陸町



場所の提供

民宿・旅館



スポーツ＆グルメツアープロジェクト